

1923年国際大会の決議第34号一正式な決議案名1923 Statement on Community Service. (「社会奉仕に関する1923年の声明」)一を略して、決議「23-34」と言います。この決議案が採択されるに至った経緯について少しお話ししたいと思います。

オハイオ州トレードRCの弁護士で、1914年にRI会長になったフランク・マルホラントがある日、車椅子の少年とすれ違ったときに、学校へは行かないのかと尋ねました。少年は、行きたいのだけれど車椅子の少年を、入れてくれる学校はないのだと言いました。これがきっかけとなり、身体障害者の学校が各地で作られるようになりました。

オハイオ州エリリアRCの病院経営者エドガ・アレンは、子供を路面電車の事故で亡くして、もしも自分の子供が事故で亡くならず、障害者でいてくれたら自分もきっと、身障者の学校を作っていたに違いないと考え、熱心に学校建設に打ち込みました。自分だけで打ち込んでいるうちはよかったです、他のクラブや他クラブの会員に寄付を要請するようになりました。

他クラブでもこの事業を取り上げロータリーが大々的に始めた社会事業となりました。国際ロータリー・クラブ連合会(RIの前身)では、クラブがない地域に連合会が主体となって、この事業を始めようとした。

こんな状況に危惧したアーサー・フレドリック・シェルドンが、「弱者救済自体やって悪いことではない。誰かがやらねばならない。だからロータリアンもやれば良い。しかし、それを以てロータリーの奉仕と考えては困る。ロータリー本来の奉仕とは、あくまでも職業人の集まりだから、職業を通して世のため人のために働くことを考えなければならない。困っている人のところに金や物を恵むのはロータリー以外でも出来るのだ」と言って、連合やアレンを批判しました。

アレンは信念を批判されたことで、ポール・ハリスに助けを求める手紙を出しました。実は、1912年に国際身体障害児協会が設立され、会長にポール・ハリス、理事長にアレンが就任していました。この返事が会長のポールからアレンへ届きました。「反対した人も間違いではなく、あなたの行為も間違いではない。次の大会に活動の範囲やロータリーの原則を、どうしたら逸脱しないか、そんな決議案を提案する」との内容でした。

シェルドンは、アレンだけでなく連合に対しても、クラブのない地域に連合会が管理してこの事業を出

来ないか、との案件に対して次のように反対しました。

「1. 弱者救済はロータリーの付随的効果である。2. その目的に添った事業団に側面的援助をして、ロータリーが全面に出て責任を負うべきではない。3. 例会出席で奉仕の心を研ぎ、その向上した心で対人関係を改善し、個々で行動すべきで団体行動は慎むべきだ。4. RIはRCの共通の利益保全と、共通の理念を明らかにする。そしてそれを遵守させた種々の情報伝達するもので、事業の実施主体ではない」というものでした。

このように身障者の学校建設で、連合も、クラブも、ロータリアンも奉仕の在り方で、論議が沸騰しました。そしてロータリーそのものを理論派と実践派が、分裂されるほど混乱を極めた。

シェルドンは、実業の倫理を主張するあまり、弱者の救済に冷淡でありました。また高理論に酔って行動に移すことを等閑にしていたので、理論的には優れていても人望は得られませんでした。

そして1923年セントルイス国際大会に、テネシー州ナッシュビルRCのウイル・R・メーニア・ジュニアに、シカゴRCのウィリアム・ウエストバークが協力して第34号を提出しました。この提案によって、ロータリー分裂の危機をはらんでいた二大対立を氷解させました。この決議は対立を見事に解決したばかりか、社会奉仕の概念を確立し、この功績で1936年ウイル・R・メーニア・ジュニアはRI会長になりました。

但し、決議「23-34」は、現在手続要覧の社会奉仕に分類されていますが、社会奉仕が確立されたのは、この決議の4年後の1927年のことです。

それは、RIBIの会長シドニー・パスカルと幹事のビビアン・カーターが、1926年のある日森の中を散歩しているとき、ロータリーは3車線道路に似ている。一つ目の路線はクラブで奉仕出来る車線、二つ目の路線は職業で奉仕出来る車線、三つ目は地域社会で奉仕出来る路線のようだ・・・という話になりました。

やがて、この話がシカゴへも伝わって、ビビアン・カーターがシカゴに招かれました。そして、総合企画委員会が組織され計画立案して、1927年ベルギーのオステンド国際大会に3大奉仕が提案され採択されました。翌1928年ミネアポリスの国際大会で、第4の奉仕である国際奉仕が追加され4大奉仕が確立しました。

このことから決議「23-34」の哲学は、社会奉仕に限定されず奉仕全般についての考え方なのだと、理解すべきではないでしょうか。

2011年 4月14日(木)

第 37号

本日のプログラム	会員卓話
次回例会	4月21日(木) 12:30~ 三次商工会議所
次回プログラム予告	会員卓話

例会記録・・・4月7日

- 点 鐘・・・・・・中川 筆之 会長
- ソング・・・・・・「君が代」「我等の盛業」
- 四つのテスト・・・児玉常典会員

会 長 挨拶 ■ 中川 筆之 会長



失礼します、一週間のご無沙汰でした。やっと暖かい春がやってきました。一昨日ツバメを見ましたが今年初めてで季節を間違わないのに感心いたします。桜も今年は少し遅れ気味ですが開花も間近と思われます。

さて、私は次年度ガバナー補佐の研修に悲鳴を上げております。今度の日曜日は補佐を対象のRLIがありまして、その対象者は当日朝8時半までに集合がかかっております。研修は10時開始ですが、その前に事前レッスンを受けなければなりません。受けるためには事前に勉強が必要でしてそれには「ロータリアン必携のロータリー情報マニュアル」という本を読まなければなりません。時間とエネルギーを大変使います。ある筋からの情報によりますと、次年度田村ガバナーは補佐全員をロタキチに仕立てようと企んでいるのではないかと。来年の年度末6月にはロタキチになっていないか心配しております。 本日は以上です。

幹事報告 ■菅原 暢之 幹事

- 次週第2例会、理事役員会の開催
- 来信文書
 - ・奥田元宋・小由女美術館
 - ・江の川親水マラソン実行委員会よりお礼
 - ・国際ロータリーよりロータリアン
 - ・R 5 4-WALK大会実行委員会よりお礼

出席報告 ■児玉 敏宏 副委員長

3月24日の出席報告					本日（4月7日）の出席状況			
会員数	出席者	Make-up	出席免除者	出席率	会員数	出席者	出席免除者	欠席
44	33	2	5	84.09%	44	30	5	9

Make-up 小田(聡)会員（PETS）・菅原会員（I. M.）

委員会報告

■会計 石田会員
会費納入のお願い

■野球同好会 児玉敏会員
4/9(土)きんさいスタジアム室内練習場において野球同好会の練習の案内

SAA報告 ■属 吉行 SAA

スマイル12,000円

前田 茂	合唱オペラ「いのものけ」お陰様で盛会祝におわることができました。
丸田 洋司	昨日、東城RCの例会に行き楽しんできました。例会後は東城の街並みや「ひな人形」を見て廻り、竹屋まんじゅうを求めて帰りました。
本人 誕生月	明山晃映
結婚 記念月	佐藤匡司・児玉敏宏
創業 月	小田聡之・常光和信・菅原暢之・丸田洋司・佐々木智・明山晃映

プログラム

三次RC創立50周年実行委員会



■野村博 三次RC50周年
実行委員長

まずはスローガンを考えようということで、“初心を忘れず 変革を怠らず”ということになりました。50周年を迎えこれから100周年までロータリークラブを続けるということになると、やはりロータリーが誕生し

たときの理念や経緯を知っておく必要があると思います。

1905年ロータリーをポールハリスという弁護士が4人で始めました。その当時シカゴはアルカポネというマフィアが暗躍し世の中が荒れておりました。4人で定期的に会合を開いて取引をどう進めていけばいいのかを相談していたのではないのでしょうか。私も、サングリーンというショッピングセンターを創るのに、10店会といって10人集めてなんだかんだと話をしましたが、同じようなことだったんだろうと思います。

ロータリーは、個人の職業の繁栄・向上によって社会に奉仕する・・・そういう事を心がけてするためにみんなで集まって話し合をするというのがロータリーだと思います。

ロータリーは、個人の奉仕というのがそもそもの目的だった。私が入会した頃ロータリーは“I serve.”でライオンズが“We serve.”だとしきりに言われていました。自分の職業を通じて世の中に奉仕するのが“I serve.”なんです。考えてみると、ロータリーの4大奉仕のうち職業奉仕以外はボランティアでお金を出してする奉仕です。三次クラブで1年間にただかできて1000万ですが、個人の職業奉仕でどうかすると1日に億から奉仕するということもあり、その余ったお金を社会奉仕に使う。

そう考えると3大奉仕は、社会奉仕の1%かそれ以下しか使っていないことから、いかに社会奉仕がロータリーの根幹をなしているということがわかります。

景気が良くなりお金が余るようになると、個人の職業奉仕は私利私欲でやっているといわれるようになり、途中からあまり言われなくなりました。

今日の会合の中で話されたことを何か有益なことがあると思いますが、それを持ち帰って自分の職業の

役に立てるとというのがロータリーの目的ですね。そういうことで、初心というのは決議23-34における“I serve.”のことで、向上奉仕するためにみんなで集まった初心に戻ろうということです。

そのところをよくわからなくて社会奉仕するためにロータリーに入るんじゃなくて自分の職業を盛んに鼓舞するためにロータリーに入って勉強するのが本来の目的です。

次に、世の中の変革を怠らなくについてですが、今世の中はすごいスピードで変わってきています。私の商売はスーパーですが、中身がころっと変わる。震災があったら水はないヨーグルトはない、さあどうするか商売がいつも移り変わり明日も同じことをしては成り立たない。カメレオンのように状況に合わせて変わっていかなければ生きていけない。

退会された会員さんの傾向を見ていると、昔は重厚長大の企業の方がおられました。今では軽薄短小になってきて軽いものしか売れなくなって、重さのない情報などがお金になる時代になってきました。何を売っているのかわからないようなそういったものがお金になる時代に。だから何が売れるかを常に経営者は考えておかないと、10年先も今と同じ商売ができるかというのではない。会社をどうするか、いつどういように変えていくかということを考えて仕事を毎日やっておかないといけない。同様に、ロータリーも今から50年続けるということになると、そういった“変革を怠らない”ことが非常に重要だと思います。だから、“変革を怠らず”としました。

4,50年前には30億だった人口が2倍の60億を超すくらいになってきて、それでも50年前と同じ仕事を老舗だからとやっていて通るかといったら通らないということを考えながら奉仕活動をしていかないとはいけません。

そういうことで、スローガンを初心を忘れず最初に職業奉仕をすることがロータリーの一番の目的であり、次に変化に対応するためには変革を怠らないことが大切だと思います。

今日、あとは、50周年の部会ごと部会長に当日の流れについて説明してもらいたいと思います。あと10日ばかりとなりましたが、よろしくお願ひします。以上で終わります。